

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年11月号

森のおくりもの11

NO.386 The Gift from Woods

アカタテハ（タテハチョウ科）



タテハチョウ科は、止まるときはねを立ててとまることが多いことから「立羽蝶」の名前が付けました。鮮やかな朱色が目立つアカタテハですが、よく見るときれいな水色がお互いの色を引き立てあうような模様になっていますね。朝晩の冷え込みが厳しくなってくるこの時期ではありますが、ぽかぽかとあたたかな陽ざしが当たる場所では、日向ぼっこするチョウに出会えるかもしれません。今月は、色づく木々の美しさ必見の紅葉シーズンでもありますので、ぜひ足をお運びください。

【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

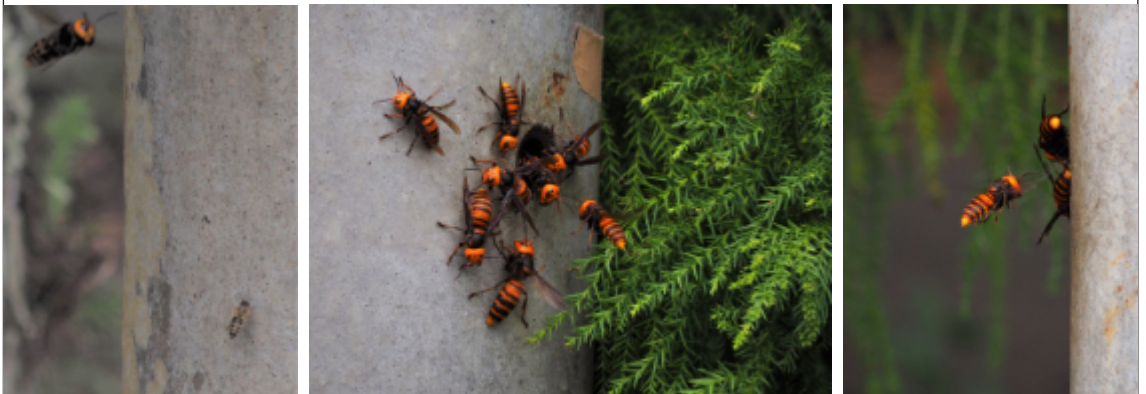
『危急存亡の秋(ききゅうそんぼうのとき)』

ニホンミツバチが巣を作っているところがあり、密かに見守っていたのですが、そこにオオスズメバチがたくさんいるという知らせを受けました。確認に行ったところ、オオスズメバチが何匹も群がって襲撃している光景を目にしました。外からは中の様子が見えないのでわかりませんが、きっとニホンミツバチがオオスズメバチと死闘を繰り広げているはずですよ。

オオスズメバチは、昆虫を狩って幼虫の餌にするのですが、秋は餌となる昆虫が減少してしまうのと、新女王蜂や雄蜂を育てる大事な時期なので、餌を確保するため他のスズメバチやミツバチの巣を襲撃することがあります。よくテレビ番組で養蜂をしているミツバチの巣箱にスズメバチが襲い掛かるシーンを放映していますので、観たことがあるかもしれません。巣箱では、入口を工夫してオオスズメバチが入れないように対策をするのですが、自然の場合にはそうはいきません。偵察で侵入してきたオオスズメバチに対して、ニホンミツバチは熱殺蜂球という集団でスズメバチを囲い込み、胸の筋肉を振るわせ熱を発生して蒸し殺す必殺技があります。これを蜂球行動といいます。オオスズメバチの致死温度は45℃ですが、ニホンミツバチの致死温度は50℃です。蜂球内部は47～48℃にもなるので、これでオオスズメバチだけが死んでしまうのです。最初の段階でオオスズメバチを撃退できればいいのですが、仲間を呼ばれて集団で攻撃されてしまうと勝ち目はなく、巣を放棄するしかありません。

ミツバチにとってこの一大事は、『危急存亡の秋』です。「危険や災難が差し迫り、そのまま存続できるか、それとも滅びてしまうかの瀬戸際を表す言葉」です。ときを時ではなくて秋を使うのは、秋は穀物が実る季節、つまり万物が成熟する大事なときであることから、秋には「大切な時、重要な時期」という意味があり、このような場合には「あき」ではなく「とき」と読むそうです。この事件は秋に起こるので、まさにその通りだと思いました。既に集団で襲撃されていたことから、恐らくこのニホンミツバチは負けてしまったのではと推測しました。せめて無事女王蜂が逃げ延びてくれたらと思いました。

オオスズメバチが悪者に感じてしまいますが、スズメバチたちは昆虫界の生態系の上部にいてバランスを保つ役割を担っています。スズメバチを駆除することは生態系を破壊することにつながるのです。 【レンジャー：新田隆一】

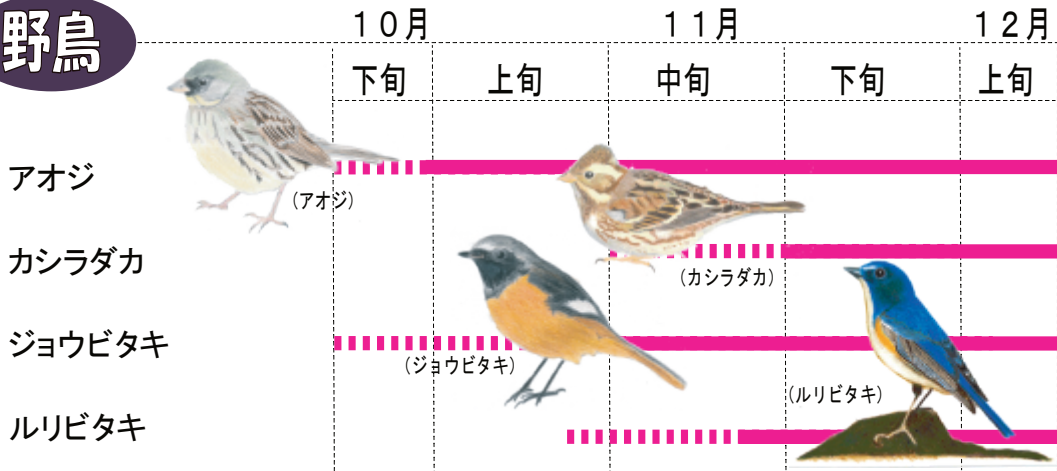


11月の生物ごよみ

- 【植物】 太白山周辺で後半に咲く『キッコウハグマ』の開花は(10月29日現在)確認されませんでした。今年の異常な暑さのせいでしょうか。他の草花も秋に咲く花は全体的に開花が遅れ気味でした。
- 【ドングリ】 昨年同様、今年のドングリは不作のようです。ドングリは不作と豊作が不定期にめぐってきます。クリは不作という程ではありませんでしたがあまり落ちていませんでした。
- 【ナラ枯れ】 自然観察の森でナラ枯れが初めて発生してから11年目になります。今年はセンター前のコナラが1本枯れたものの、ほかには確認できませんでした。さらに経過を観察したいと思います。
- 【キノコ】 今年は特に暑い日が続いたためか、夏に発生するタマゴタケなども10月初旬くらいまで確認することができました。全体的にキノコの発生時期にも遅れがあったようです。
- 【昆虫】 センター前のエノキで『アカボシゴマダラ』が初確認されました。本来は東南アジアに生息していて日本の『ゴマダラチョウ』に似ているチョウの仲間です。日本では『特定外来生物』に指定されています。今後の動向を観察していきたいと思います。
- 【野鳥】 冬鳥の一番手『ジョウビタキ』は10月20日にセンター付近の市道で確認することが出来ました。冬鳥たちの動きはこれから期待したいと思います。
- 【野生動物】 今年は特にツキノワグマの出現情報が多く、センターに設置してあるセンサーカメラにも5月ごろから何度も確認されています。森を散策するときは、クマ鈴などを身に付けてツキノワグマと遭遇しない工夫が必要です。

【レンジャー:齋 正宏】

野鳥



森の「あれこれ」



「エノキとイカル」



パキッ、パキッ…枝の折れるような何かを割るようなりズミカルな音が聞こえてきました。誰のしわざでしょう？こんな場面に遭遇するとワクワクします(笑)。早朝の観察の森、黄葉の始まったエノキのこずえからです。

カメラ越しに探すと黒い頭と翼、スズメよりもずっと大きい灰色の体、そしてなんといっても目立つ太い黄色のくちばし！犯人はイカルでした。20羽以上の群れで移動している途中のようです。パキパキはイカルが太いくちばしで種を割っていた音でした。

では問題です(笑)。エノキは6mm程の実をつけ、緑色の実が熟すると赤褐色になり甘くなります。なぜでしょうか？

答えは野鳥に食べてほしいから。実の色が変わるのは“甘くなったよ！食べて!!”というサインです。小鳥にも丸呑みできる小さな実は小鳥のお腹の中で消化され種だけが親の木から離れた場所でフンと一緒に排出されます。鳥のお腹を通ると種も芽も出やすくなり野鳥も甘いごほうびがもらえるしお互いウィンウィンの関係なのです。

…という説明をよくするのですが、木の実と野鳥のかかわりについてのこの解説はエノキとイカルには成立しないようです。“本当は大事な種を運んで欲しいのに”とエノキはきっと不満なのではないでしょうか。エノキの根元を見るとイカルに食べられたと見られる種の殻が落ちていました。頭上で優しげなキヨコキというさえずりがあちらこちらから聞こえます。

日に日に秋が深まりいよいよ冬の気配です。観察の森に冬だからこそ逢える野鳥がやってきますよ。暖かい服装で散策にいらしてはいかがでしょうか？

【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*~*)

秋が深まってきました。朝晩の気温もずいぶん下がようになってきました。猛暑を耐え光合成に励んだ植物の葉はそろそろ役目を終了させる時期です。葉緑体の分解が進みもともとあった黄色の色素が目立つ葉っぱ、アントシアニンを合成する葉は赤色に色づいて森を錦に飾ります。思えば萌え出した若葉が森を覆いつくしたのは初夏の頃でした。あれから半年、こんなにも森の様子は変化するんですね。紅葉のメカニズムは科学的に説明できそうですが、散り際がこれほど鮮やかな理由は何かあるのでしょうか。…(^_^)



植物の実もすごくカラフルで目を楽しませてくれます。小さな赤い実が丸く房のようになっているのはミヤマガマズミ、小さな実が棒状に集まり、先端の方から赤くなってきたのはマムシグサ、そして紺色でブルーベリーのような実はサワフタギ、赤い星型の萼(がく)が深い藍色の実を載せているのはクサギ。この鮮やかな色合いは本当に美しいですね。この色に惹かれて実をついばむのは鳥です。しかし種子は消化されないので遠くまで運ばれることになりますからこれは鳥を利用した種子散布の戦略なのですね！植物ってすごい。ところで鳥の好きな色をなぜ知っていたのでしょうか。 (^_^)【レンジャー：菅原幸彦】

11月のイベント & お知らせ

イベント

◆「森のアート感さつ会『もみじの森のアート』」

- 【日時】11月11日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】紅葉で色づいた葉っぱで楽しみながら、秋の自然に親しみます
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】11月7日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「晩秋の鉤取山ネイチャーウォーキング」

- 【日時】11月18日(土) 10:00~15:00
- 【対象】20名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】講師から自然や歴史についての解説を聞きながら秋が深まる鉤取山の散策路を歩きます
- 【持ち物】昼食、飲み物、帽子、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】11月10日(金)必着で往復葉書にて(抽選)

◆「冬の森の自然あそび」

- 【日時】12月2日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学生以上の子どもとその保護者 10名
- 【内容】森を観察や拾った自然の素材で作品作りをして自然を楽しみます
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】11月8日(水)午前9時より電話受付(先着)



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 5日, 12日, 19日, 26日
時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00
※4月~11月は午前・午後の2回実施します

休館日



6日, 13日, 20日, 27日
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

観察の森へのアクセス

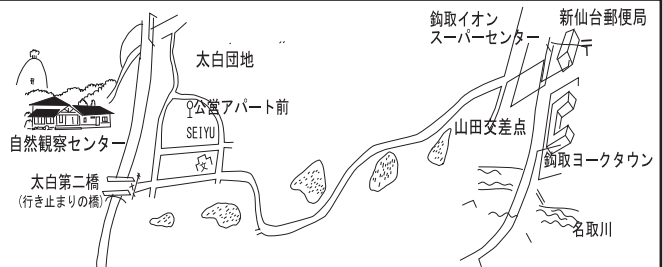


宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター